BOOKS

生命のないものに生命を吹き込んだ絵本

『くれよんのくろくん』
作：なかやみわ
童心社　２００１年

絵本

本書の作者である、なかやみわさんの作品には、意外なものが主人公になるパターンが多いです。本書の場合はクレヨン。他には『そらまめくんのベッド』のそらまめとか。絵本の場合は通常、動物で手堅くおさえるのが基本ですよね。ネズミ、ブタ、オオカミ、ヤギなどなど。他にもいろんな動物が挙げられますが、少なくとも生物なわけです。まあ、そらまめは植物だからして、生き物であることは間違いないんですが、クレヨンは完全に「物」ですからね。それに生命を与えて、なおかつおもしろい絵本に仕上げてるんだから大したもんです。

でもよく考えたら、クレヨンは子供たちのすっごく身近にあるもの。子供たちが自由に触ったり握ったりそれで何かをクリエイトできるものひとつなわけです。そういう「物」を主人公にした作者の着眼点がすばらしいと思うのですが、いかがでしょうか。（竹永浩之）

■ 新刊紹介 ■

■ルポ貧困大国アメリカII（堤未果、岩波新書）経済危機後のアメリカでは、社会の貧困化が加速している。職が見つからず、学資ローンに追い立てられる若者たち、老後の生活設計が崩れた高齢者たち。教育、年金、医療、そして刑務所までもが商品化され、巨大マーケットに飲み込まれている。オバマ登場で状況は変わったのか。世界を飲み込もうとしているのは、キャピタリズム（資本主義）よりむしろ、コーポラティズム（政府と企業の癒着主義）の方である。人々の肉声を通して、アメリカの今を活写するルポ第2弾。■廃墟に乞う（佐々木譲、文藝春秋）13年前に札幌で起きた娼婦殺害事件と、同じ手口で風俗嬢が殺された。心の痛手を癒すため休職中の刑事仙道だが、犯人の故郷である北海道の旧炭鉱町へ向かう。犯人と捜査員、2人の傷ついた心が響きあう、その時。刑事仙道孝司を主人公にした連作短編集６編。文体が硬質で短めにもかかわらず、表現豊かな描写が新鮮な直木賞受賞作。■イノベーションを興す（伊丹敬之、日本経済出版社）イノベーションとは「技術革新の結果として新しい製品やサービスを作り出すことによって人間の社会生活を大きく改革すること」なのである。グーグル、ＣＤ、日本語ワープロなど、人々に感動を生み出せるような大きなイノベーションが生まれるプロセスでは、筋のいい技術を育てる、市場の出口を作る、社会を動かすというこの3つの段階が重なってはじめて、生まれてくる。イノベーションが起きる3つのステップを解明し、日本企業への提言を行う。■ブレイクスルー・トライアル（伊園旬、宝島社文庫）技術の粋をつくしたIT研究所の侵入し、ミッションをクリアすれば1億円が手に入る一大イベントが開催されることになった。元IT企業の社員チームが、ひょんなことから紛れこんだダイヤモンド強盗犯グループなどが参加を表明。生態認証や警察ロボットをはじめ、数多のセキュリティが設置された難攻不落の要塞を攻略するのはどのチームなのか。「このミステリーがすごい！」大賞受賞作。■自分なくしの旅（みうらじゅん、幻冬舎）美大合格を目指し、京都から上京した浪人生の乾純。親戚の家に居候し、美術予備校へと通う純の目の前に「東てる美」に似た美奈が現れた。外車を乗り回し、銀座の高級料理店へも平気で足を運ぶ美奈。自分とは住む世界が違う彼女に戸惑いつつも、いつしか恋に落ちていく。めでたく恋は実り、益々美奈にのめり込むが、やがてなにもかもが混乱のるつぼと化していく。親の愛情は重くのしかかり、友人たちとは距離が広がり、苦悩は深まるばかり。「自分なくし」を提唱する著者。その理由は、「本当の自分なんてない」から。■氷上の美しき戦士たち（田村明子、新書館）日本は今空前のフィギュアスケートブーム。オリンピックを目指して熱い戦いを繰り広げる男子トップ・スケーターたちの姿をニューヨーク在住のジャーナリストが描き出す。（川原弥生）

■書籍データ／資料提供・紀伊國屋書店ＮＹ本店

日本の近未来を暗示する衝撃の第2弾。直木賞受賞作品。社会を動かすイノベーション。12時間以内にＩＴ要塞を攻略せよ！　自分なんて一生わからない。フィギュアスケート最前線。

議論上手は説得上手

ニューヨーク州弁護士
大橋 弘昌さん

3年前に『負けない交渉術』を出したニューヨーク州弁護士、大橋弘昌氏が同じダイヤモンド社から今度は、『負けない議論術』を出した。私たちは、日々の生活の中で、常に交渉している訳ではなく、説得という形で自分の意見に支持してもらうような場面に遭遇することの方が多い。

会社でも、また社を離れたグループでの話し合いでも、意見を論じ合う当事者以外に第３者がいて、その第３者がどちらの意見がより理にかなっているかを判断するような場面がある。たとえば、役員会議で２人の役員の意見がぶつかり、それを聞いている社長がどちらの意見を採用するかというような場面だ。

この本を筆者が執筆し始めたのは丁度オバマ大統領が選挙前にヒラリー・クリントン候補とディーベートをしている時だったという。それは、相手を論で打ち負かすというよりも、いかに相手を説得して周りで聞いている人を味方につけることができるか、という議論術が際立っていたという。相手に恥をかかせず、相手に合意しながら自分の方に意見を導く。かつて、ロナルド・レーガン大統領が選挙中に高齢であることを攻撃材料にされたが、レーガン氏は高齢であることはベテランであることと切り返し、欠点を長所にして聴衆を納得させた。

議論をすることは悪いことではなく、むしろこれからのグローバリゼーションの荒波の中で、日本人は、世界で自分を主張できるようになっていくことが大切であると説く。逆接的な言い方をすれば、日本は戦後、モノづくりの高い品質によってそのモノや会社のブランドによって代弁してもらったがために、自らの議論交渉力を育てる機会を失ったとも。いま、世界中で似たような品質のモノが作り出され、トヨタのように世界レベルでの高品質ブランドにも陰りが見え始めた今、日本人はいかに相手を説得できるかの議論術をいろいろなパターンで身につける必要があると主張する。

２国間交渉では、外交ならＯＤＡで資金力をバックに上から目線で話し、ビジネスではブランド力に胡座をかいて交渉してきた日本。しかし、国連のような国際舞台では主張する意見に周りを説得させ、いかに賛同を得ることができるかが問われる。地球温暖化対策でも二酸化炭素排出量を25％削減するという日本の主張は、その前段で中国とアメリカが歩調を合わせればと言っているにも関わらず、その部分はかき消されて25％だけが一人歩きしてしまう。米国の陪審員制度は、ロジックではなく、いかにして聞いている周りの人の感情に訴えて聞いている人の気持ちを引き寄せるかに力が置かれる。議論で勝つ者に漂う勝者の余裕みたいなムードは学んでおくものなのかもしれない。

まずは本書を熟読されることをお薦めする。（三）

Figure Photo Art Studio
肖像写真芸術館
ポートレート・スチールライフ
STUDIO
50 Webster Ave #2A
New Rochelle NY 10801
www.shozophotoart.com
info@shozophotoart.com
212-431-1322
Long Island City Studio 有
メイク有、お気軽にお問い合わせ下さい。

東京都立戸山高校同窓会
城北会年次総会
日時：3月4日（木）　19時より
場所：レストラン日本
会費：$80（学割あり）
連絡先：nyjyohokukai@gmail.com（金刺）

週刊ＮＹ生活 郵送定期購読のご案内
お忙しくて弊紙設置箇所に毎週取りに行けない方、お近くに設置箇所が無い方、新聞をご自宅に郵送いたします。
☆購読料金　1年 $120 ！
＊6ケ月や3ケ月のご購読契約もお選びいただけます。
6ケ月 $65　3ケ月 $35
＊日本や海外からのお申し込みも承ります。料金はお問い合わせ下さい。
お問い合わせは：
New York Seikatsu Press, Inc.
Phone: 212-213-6069　Fax: 212-213-6451
E-mail: info@nyseikatsu.com

イベント案内
話題書
「廃墟に乞う」
佐々木譲 文藝春秋
第142回直木賞受賞作。警察手帳も持たず、拳銃も持てない仙道がどのような捜査をするのか？ニセコ、夕張などを舞台に、北海道が抱える社会的問題を鋭く描く第一級のエンターテインメント。
第一級エンターテインメント
「ほかならぬ人へ」
白石一文 祥伝社
第142回直木賞受賞作。愛するべき真の相手は、どこにいるのだろう？「恋愛の本質」を克明に描きさらなる高みへ昇華した文芸作品。
恋愛の本質
バレンタイン特別企画
2月10日~14日
アニメ・マンガ商品 10%OFF!
Manga Member Card会員の方は、アニメ・マンガ商品が15%OFFとなります。この機会に、ぜひご来店下さい！（一部、企画対象外の商品がございます）
BOOKS Kinokuniya
お問い合わせ：紀伊國屋書店 NY本店
1073 Avenue of the Americas, New York, NY 10018（6番街 40丁目と41丁目の間）
tel: 212-869-1700　fax: 212-869-1703　email: nyinfo@kinokuniya.com
www.kinokuniya.com